



地崎道路株式会社

～ Link the Road ～

CHIZAKIDORO COMPANY PROFILE



繋がる道づくりは 私たちの誇り 革新は私たちの使命 ～ Link the Road ～



新たな価値創造となる技術革新を使命に
都市を結び、地域を繋ぎ、
そして未来へつながる道をつくる。



都市を結び、地域を繋ぎ人やモノの移動、人々の日々の暮らしや経済活動を支える環境を創ってきた道路。国内の都市や世界の国々を結び、人やモノをより早く目的地へと運び続ける航空機の運航に不可欠な空港。丈夫で安全、安心できる快適な道路や空港建設に携わることは、地崎道路が設立以来負ってきた社会的責任を全うすることであり、人と人そしてそれぞれの命と思いを繋ぐ道づくりは私たちが受け継いできた誇りです。

当社は半世紀以上にわたり、北海道から沖縄まで全国各地で人々の暮らしと経済の根幹を支える社会インフラを守るという社会への貢献を通じて、社員一人ひとりが幸せや喜び、個々の成長を感じることができた企業風土を築いてきました。社員一人ひとりが、互いに人格を尊重し助け合い職場規律の発揚に努めながら自己の義務を誠実に遂行し、地域、社会、そして関わりあるすべての人から信頼され成長し続けるために、これまで培ってきた高度な土木技術を継承し、技術革新を使命として、未来へと繋がる道をつくり続けてまいります。

CHIZAKI BUSINESS FIELD



街へ、社会へ、未来へ

— 私たちの仕事は繋がっていく

地崎道路は、半世紀以上にわたり日本各地で道づくりに取り組んできました。この間、常に最新の技術を取り入れ、より高品質な施工を追求することで、様々な分野にわたる知見と実績を積み重ねてきました。現在では、道路や空港の施工だけでなく、空港除雪事業、工事資材製販事業、バリヤ事業、環境事業など、幅広い領域において、都市と自然環境との共生を目指し、持続可能な社会の実現に向けて事業活動を行っています。

一般道・高速道路

設立以来、産業や暮らしを支える道づくりに取り組んできました。国土交通省、NEXCO 各社、地方自治体など、多くの発注機関から高い信頼をいただき、全国各地で実績を積み重ねています。



空港・基地

設立当初より、滑走路、誘導路、駐機場などの空港土木施設工事に携わってきました。航空機の運航に支障をきたさない工程管理をはじめ、高度な専門性を要する寒冷地の空港で培ったコンクリート舗装の施工技術が、空港施設を管理する発注機関から高い評価をいただいています。



空港除雪事業

北海道の玄関口である新千歳空港において、90 台を超える空港専用の特殊除雪車両を運用し、除雪業務を担っています。特殊除雪車両の操作には高度な技術と判断力が求められるため、人材の育成に力を注ぎ、高品質・高精度な除雪作業を行っています。



バリヤ（航空機着陸拘束装置）事業

航空自衛隊基地の滑走路などの土木施設工事とあわせて、バリヤ（航空機着陸拘束装置）の設置・保守を行っています。戦闘機の安全な着陸を支える、地崎道路が蓄積してきた専門性の高い技術に裏打ちされた事業です。これまで全国 15 カ所の航空自衛隊基地で施工実績を有しています。



人材育成への取り組み

経営における最大の資産は「人」と考え、人材育成に力を注いでいます。新入社員研修、年次フォロー研修、資格取得支援を行う拠点として「恵庭総合技術センター」内に研修センターを開設しました。同センターには、社員同士の交流を深める施設も併設しています。



工事資材製販事業

自社で生コンクリートプラントを保有し、施工現場で培った技術力を活かした製造・品質管理を行っています。工事現場への安定的な供給体制を確保するとともに、常に高品質な生コンクリートを提供するため、各種試験を実施し厳格な品質管理を行っています。



油汚染土壌浄化事業

当社の環境事業は、鉱油類による土壌汚染の状況を調査により的確に把握し、土壌に元来生息するバクテリアが持っている化学物質を分解する能力を利用した工法の中から最適な工法を選択し、油汚染土壌を浄化するものです。初期対応から調査、施工、アフターフォローに至るまで、一貫したサービス体制を整えています。



建設 DX

建設生産・管理システムのデジタル化による業務効率化を推進しています。産学連携による共同研究により開発した路面測定装置・舗装管理支援システムの社会実装が実現し、普及に向けたコンサルテーションを行っています。



AIRPORT SNOW REMOVAL

AIRCRAFT ARRESTING SYSTEM

HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT

AIRPORT / BASE

CONCRETE / ASPHALT MATERIAL

BIOREMEDIATION

PROMOTION OF ICT TECHNOLOGY

GENERAL ROAD / HIGHWAY

北関東自動車道
水戸管内舗装災害復旧工事
東日本大震災における道路被害の復旧・復興事業



MITO, KITA KANTO EXPRESSWAY



国道1号線
川崎市幸区舗装工事

NATIONAL ROUTE 1

道東自動車道
帯広サービスエリア



OBIHIRO SERVICE AREA

INFRASTRUCTURE

都市をつなぐ
現代社会のインフラ

一般道・高速道路

戦後、一般道や高速道路の整備が進み、日本の経済発展に大きく寄与しました。道路は都市と都市を結び、人やモノを運ぶ経済の大動脈として産業の発展を支えてきました。また、整備された高速道路や一般道は、モーターリゼーションの進展にも寄与し、多様化する人々のライフスタイルの変化にも大きな影響を与えています。

さらに道路は「人やモノを運ぶ」機能だけでなく、地域・まちをつくる（空間の）機能も備えています。基盤の目のように整備された道路や放射線状に延びる道路は、その都市ならではの風格を醸し出します。半世紀以上にわたり、現代社会に必要な不可欠なインフラである道づくりに携わってきたことは、私たちの誇りです。国土交通省、NEXCO 各社、地方自治体など多くの発注機関から高い信頼をいただき、常に革新的な技術を取り入れながら、高品質の施工を実践しています。

これからも、人々の豊かな生活と理想的な都市づくりのために、安全で美しい道路をつくり続けます。

TECHNOLOGY

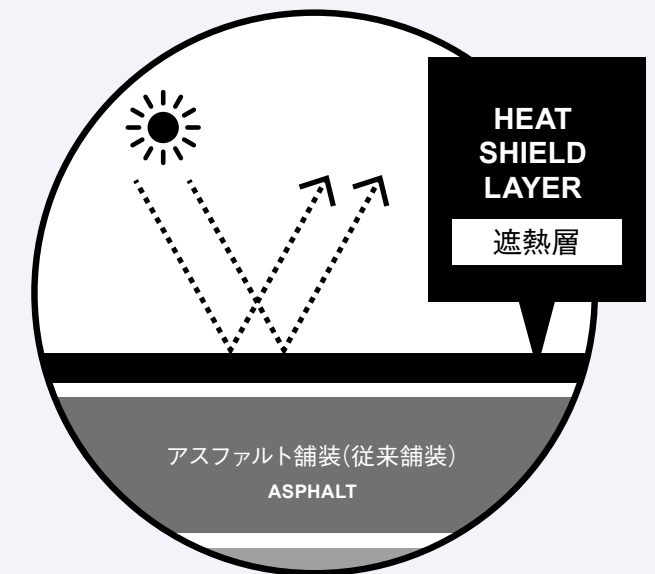
持続可能な社会への技術力「環境対応舗装」

遮熱性舗装

太陽光の赤外線域を反射することで、アスファルト舗装の路面温度上昇を抑制し、舗装体内の蓄熱量を減少させることで、夜間の放熱量を抑える工法です。

保水性舗装

吸水・保水効果を持った「保水材」をアスファルト混合物の空隙に充填し、水分が蒸発する際の気化熱により路面温度の上昇を抑制する工法です。



一般国道 229 号積丹町
神岬舗装補修工事

AIRPORT / BASE



羽田空港

HANEDA AIRPORT



釧路空港

KUSHIRO AIRPORT



新千歳空港

SHINCHITOSE AIRPORT



女満別空港

BRING TOGETHER TECHNOLOGIES SUPPORT THE ROAD TO THE SKY

SINCE 1968

地崎道路の技術が支える 空への道

空港・基地

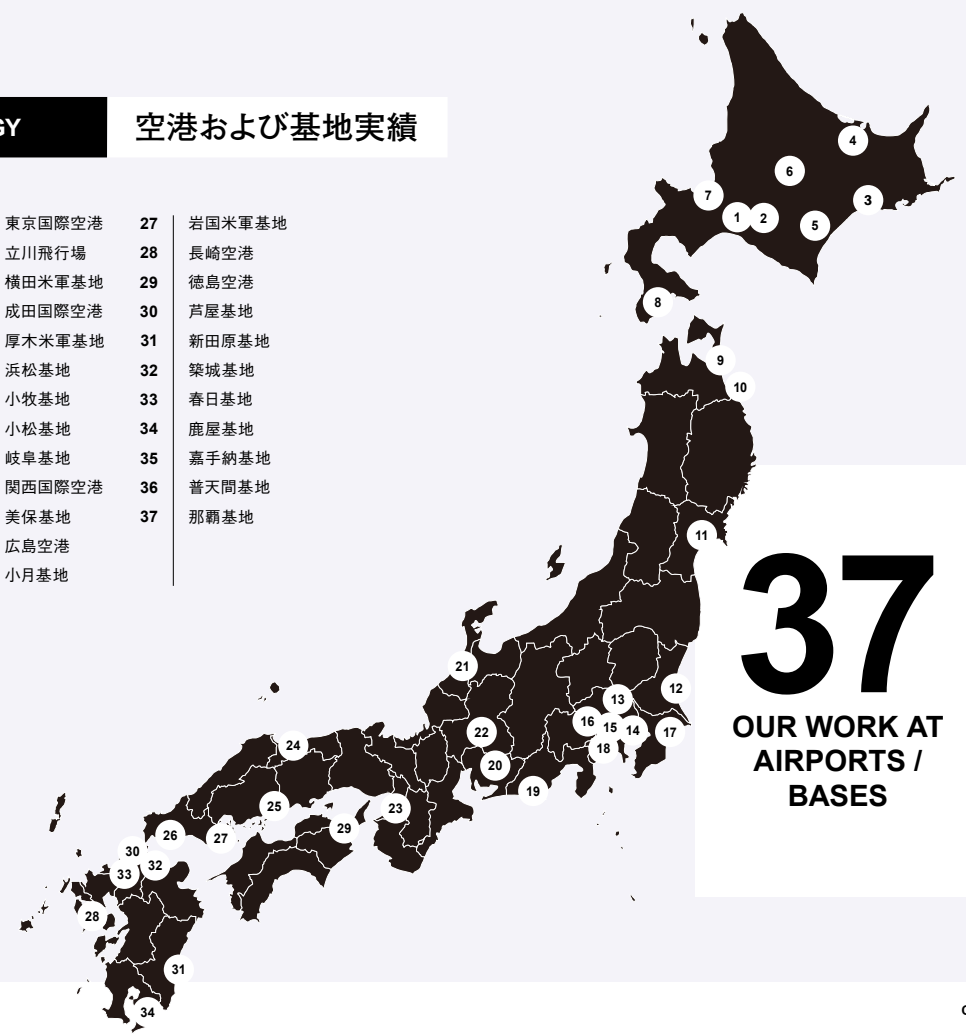
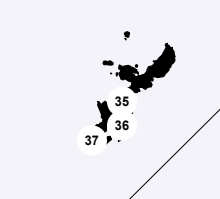
国内の旅客数は年間1億人を超え、国際線を含めると2億5600万人以上にのぼります。この数字からは航空交通が果たしている役割の大きさを伺い知ることができます。設立当初より、民間空港および自衛隊基地の滑走路、誘導路、駐機場（エプロン）などの空港施設の新設・維持修繕工事を手掛け、空への道を支えてきました。新千歳空港、成田国際空港、東京国際空港、関西国際空港など、日本の主要空港の建設に携わっています。

特に、寒冷地の空港で培ったコンクリート舗装の施工技術、航空機の運航を妨げない厳密なスケジュール管理などの専門性の高い技術が、空港施設運営会社や国土交通省、防衛省といった発注機関から高く評価されています。

TECHNOLOGY

空港および基地実績

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 1 千歳基地 | 14 東京国際空港 | 27 岩国米軍基地 |
| 2 新千歳空港 | 15 立川飛行場 | 28 長崎空港 |
| 3 釧路空港 | 16 横田米軍基地 | 29 徳島空港 |
| 4 女満別空港 | 17 成田国際空港 | 30 芦屋基地 |
| 5 帯広空港 | 18 厚木米軍基地 | 31 新田原基地 |
| 6 旭川空港 | 19 浜松基地 | 32 築城基地 |
| 7 丘珠空港 | 20 小牧基地 | 33 春日基地 |
| 8 函館空港 | 21 小松基地 | 34 鹿屋基地 |
| 9 三沢基地 | 22 岐阜基地 | 35 嘉手納基地 |
| 10 八戸基地 | 23 関西国際空港 | 36 普天間基地 |
| 11 松島基地 | 24 美保基地 | 37 那覇基地 |
| 12 百里基地 | 25 広島空港 | |
| 13 入間基地 | 26 小月基地 | |



37
OUR WORK AT
AIRPORTS /
BASES

AIRPORT SNOW REMOVAL

新千歳空港
除雪業務

NEW CHITOSE AIRPORT

SNOW REMOVAL WORK

PROTECT

北海道のゲートウェイ、
新千歳空港を守る



PROTECT THE SKY ENTRANCE OF HOKKAIDO

空港除雪事業

冬の新千歳空港は、厳しい気候に見舞われることも多く、大雪が降ることも珍しくありません。冬季でもビジネスや国内外から訪れる観光客など多くの人々が利用しますが、こうした人々が安心して空の旅ができるように、空港除雪事業に取り組んでいます。12月から翌年3月まで、航空機の安全運航、定時運航を確保するために、滑走路・誘導路・駐機場（エプロン）・ターミナル周辺・構内道路など空港施設全域で、スノーブラウ除雪車・自走式スノースイーパー除雪車・牽引式スノースイーパー除雪車・ロータリー除雪車・大型融雪剤散布車など90台を超える空港用特殊除雪車両を使用して行います。こうした車両の運転には高い技術が必要なため、人材育成、技術の継承にも力を注いでいます。

TECHNOLOGY

チームワークを活かした新千歳空港の除雪業務

北海道のゲートウェイ新千歳空港は、国内第2位の乗降客数を誇っています。広大な敷地面積726ヘクタールの38%に当たる約275ヘクタールが除雪対象施設となります。滑走路の除雪作業は、短時間でその区域の雪を除去しなければならず、通常の除雪技術にプラスαのスキルが求められます。そのため経験豊富なスタッフでプロフェッショナルチームを編成し、迅速かつ高精度な除雪作業を行い、空港の機能と安全を守っています。

1. 指令

情報官運用室から監督官とオペレーターが控える除雪センターへ指令が出されます。

2. 出動

各除雪車両が目的区域へ一斉に出動します。

3. 中心線の掻き出し

先頭のスノースイーパー除雪車が、ブラシとエアによって雪で隠れた滑走路の中心線を掻き出します。

4. 雪堤の積み上げ

スノーブラウ除雪車が路面上の雪を掻き出し、連結した牽引式スノースイーパー除雪車がブラシをかけて雪を完全除去。これを雁行作業（編隊を組んで行う作業）で行うことで雪堤を築きます。

5. 雪を滑走路の外へ飛散

積み上げられた雪堤を、ロータリー除雪車を使って滑走路の外へ飛ばします。

6. 凍結防止剤の散布

必要に応じて、作業済みの路面に大型薬剤散布車で凍結防止剤の散布を行います。

7. 路面状況の測定

除雪作業が済んだ後、雪氷調査車による路面状況測定の結果、航空機の離着陸の安全が確保されると一連の除雪作業が完了となります。

8. 終業点検

帰庫後は除雪車輛に付着した氷雪を取り除いて次の作業に備えた整備を行い、必要があれば修理をします。

CONCRETE / ASPHALT MATERIAL



千歳生コンプラント

道内の道路会社で唯一、自社生コン工場を保有する地崎道路。その背景には寒冷地で鍛えられた高い技術力と多くの施工実績がある。

IN-HOUSE CONCRETE PLANT



京浜リサイクルセンター

神奈川県川崎市に位置しており、恵まれた立地から高い生産量を誇る。

KEIHIN RECYCLE CENTER

CONSTRUCTION MATERIALS

高い試験技術と徹底した品質管理

工事資材製販事業

千歳生コンクリートプラントは、日本産業規格（JIS）認定工場として、近隣の土木・建築工事現場に高品質な生コンクリート（レディーミクストコンクリート）を安定供給しています。

当プラントは1時間あたり120m³の生コンクリートの製造が可能で、年間出荷量は1万m³以上に達します。また、「コンクリート圧縮強度試験」や「各種骨材試験」、「各種密度試験」など、各建設現場のニーズに応じた各種試験を実施し、徹底した品質管理を行っています。

特に新千歳空港や航空自衛隊千歳基地に供給する舗装用コンクリートには、寒冷地特有の凍結融解によるポップアウトや融雪剤による劣化を防ぐため、高品質な骨材を使用しており、適切な骨材選定のための「融雪剤反応試験」を実施し、安心して使用いただける高品質な製品を提供しています。



CONDUCTED BOTH ASPHALT AND CONCRETE TESTS



OUR PLANTS

AIRCRAFT ARRESTING SYSTEM

戦闘機の安全を支える

バリヤ（航空機着陸拘束装置）事業

航空自衛隊基地内の滑走路などの土木施設工事に加え、バリヤ（航空機着陸拘束装置）事業を展開しています。

バリヤシステムは、戦闘機が着陸時に滑走路内で停止できない緊急時に使用されるもので、拘束フックを有する戦闘機が、滑走路の両端部に設置され滑走路を横断しているワイヤーにフックを引っかけて機体を拘束する BAK-12（ワイヤー式）、管制官の操作により滑走路上に設置されたネットが立ち上がり機体を拘束する BAK-12/15（ネット式）等があり、戦闘機の安全確保に不可欠な技術です。

これまで全国 15 ヶ所の自衛隊基地で施工実績を有しています。



BIOREMEDIATION

環境に優しい油汚染土壌浄化技術

油汚染土壌浄化事業

経済産業省・環境省から「微生物によるバイオレメディエーション利用指針」に基づく適合確認を取得し、脱炭素社会の実現に向けて油汚染土壌・地下水の浄化に積極的に取り組んでいます。

バイオレメディエーションとは、灯油や軽油、重油などの鉱物油を分解する微生物（バクテリア）を使用して油汚染された土壌や地下水を浄化する環境修復方法で、二酸化炭素（CO2）を排出しないことが大きな特徴です。

汚染現場では守秘義務に配慮しながら、油汚染対策ガイドライン（環境省）に基づいた調査を行い、鉱物油の土壌・地下水への汚染範囲や深度を特定します。調査結果に応じて、「バイオフィーミング工法」「バイオブائل工法」「バイオベンディング工法」から、現場に最適な工法およびコスト面を考慮した汚染浄化計画を立案し、浄化作業を行います。



HUMAN RESOURCE DEVELOPMENT

人材育成への取り組み 技術・技能の継承

恵庭総合技術センター

2021年4月 北海道恵庭市に「恵庭総合技術センター」を開設しました。1万2900平方メートルの敷地には、新入社員研修をはじめ、ICT分野や最新技術の専門的な研修や資格取得など、人材育成の拠点となる研修センター、建設機械を屋内で管理できる機材センターのほか、社員同士の交流を深める施設（東屋えにわ）を併設しています。また、災害時には地域の防災拠点としての活用を想定しています。

機材センター

1320㎡の広さがあり、フィニッシャー、スプレッダー、レベラー、ブルドーザ、モーターグレーダ、マカダムローラーなどの建設機械の整備・点検を行っています。施設には環境に配慮したEV・PHV充電サポートスポットを備えています。



研修センター

社員の人材育成を目的とした研修センターは、30名が一度に研修を受けることが出来る研修室を設けています。



東屋えにわ

バーベキューを行うなど社員同士の交流を深める場として、活用されています。



「人」こそ最大の経営資産

当社は、経営における最大の資産は「人」であると考えています。

人的資本経営の積極的推進を行うことで競争力の強化を図り、経営基盤を強固にするとの基本方針のもと「自ら成長を目指し、挑戦し続ける前向きな人」、「人や仕事への誠実さを持ち、チームで力を発揮できる人」の育成に力を注いでいます。

集合研修として、新入社員研修に加え、技術者として必要な国家資格の取得に向けたカリキュラムを含んだ入社1年次・3年次・5年次社員を対象としたフォロー研修を行っているほか、若手・中堅社員を対象としたエンゲージメント強化セミナー、中堅技術社員育成研修、経営幹部等育成セミナー等、階層別の研修を開催しています。

また、技術力の向上を目的とした「施工技術発表会」を毎年開催し、獲得した技術の展開を図るなど、技術の研鑽にも積極的に取り組んでいるほか、これからの建設業を支える担い手の確保、次世代への技術継承に向けた取り組みとして、高校生・大学生を対象にインターンシップを実施しています。

「教育・研修体系図」

		種別研修					
		事務	土木	舗装	材料	環境	IT/ICT
経営幹部							
		経営幹部等育成セミナー					
		技術士試験講座（選抜研修）					
管理職	管理者専門研修 （総務・人事・ 経理・財務）	施工技術研修（上級）					実務研修
		所長候補者マネジメント研修					
		施工技術研修（中級）					
若手新人		エンゲージメント強化セミナー					
		1・3・5年次フォロー研修					基本研修
		新入社員集合研修					

社員研修



施工技術発表会



インターンシップ



DX (DIGITAL TRANSFORMATION)

デジタル技術の推進

建設DXで挑む、次世代のインフラ創造

ICT の活用による持続可能で
高品質なインフラづくり

当社は、国土交通省が推進する BIM/CIM (Building / Construction Information Modeling, Management) の原則適用を見据え、建設生産・管理システムのデジタル化による業務効率化に早くから取り組んでいます。

これまでに ICT 施工における「3 次元起工測量から納品までの 5 段階」の内製化へ向けた体制を構築。現在は、蓄積した技術を基盤とした「CIM の内製化」に注力しています。ドローンや地上レーザースキャナを用いた 3 次元測量による高精度な点群データを活用し、施工前にリアルな 3 次元モデルを構築。さらに 3D プリンターによる模型作成や、AR 技術・AR ヒートマップを用いて現地に仕上がりを投影するなど、最先端の「視覚化」を実践しています。これにより、施工ステップの事前検証や関係者への直感的な説明が可能となり、現場の安全性・効率化と迅速な合意形成を実現しました。

今後は、この「視覚化による効果」をさらに進化させ、現場の省力化・省人化、高度な情報収集、そして 3D データを活用した次世代の人材育成・教育を推進。デジタル技術の力で、持続可能で高品質なインフラづくりに貢献してまいります。



ドローンを用いた 3 次元測量による高精度な点群データを活用



AR 技術を用いて最先端の「視覚化」を実践

舗装管理技術のコンサル

ACTUS & PSS II

舗装管理支援システム (PSS II)

日常の舗装管理業務を可視化する
次世代舗装管理支援システム

我が国では、今後人口減少・少子高齢化が進むなか、道路の維持管理の限られた予算・人員のもとで安全・安心な道路機能を維持する必要があります。そのような背景のなかで、当社では、北見工業大学・東京農業大学と共同研究を行い、路面測定装置 (ACTUS・アクタス) を利用した舗装管理支援システム (PSS II) を開発し、効率的なメンテナンスサイクルの実現に向けた取り組みを行っています。ACTUS を利用し路面性状の測定データを日々の道路パトロール等で高頻度取得し、PSS II で劣化度の解析を行うことで、限られた人員のもとでも計画的な修繕・補修の立案が可能となります。さらに測定データを積み重ねることにより、予防保全型のメンテナンスが実現され、修繕費のコスト縮減、安全・安心で乗り心地のよい道路の維持管理が可能となります。



ACTUS はどんな車両にも取り付けが可能。路面データと GPS データを統合し、リアルタイムで計測データをモニタリングできます。



PSS II は ACTUS で計測したデータを下に舗装路面のわだち、ひび割れ、IRI の路面性状調査結果データを集計し、補修範囲を自動選定します。